

令和 6（2024）年度 「ビジネスにおける AI データ利活用プログラム」自己点検・評価

小樽商科大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム推進専門部会において実施した、令和 6（2024）年度「ビジネスにおける AI データ利活用プログラム」にかかる自己点検・評価・改善の検討状況について、報告します。

評価項目

- A: 項目の観点を満たしている
- B: 項目の観点を満たしているものの、改善の余地がある
- C: 改善の余地がある

1. プログラムの履修・修得状況【A】

「ビジネスにおける AI データ利活用プログラム」として開講した「総合科目Ⅰc（ビジネスにおける AI データ利活用）」の履修者数は、382 名（前年度：317 名）であった。うち 366 名（前年度：297 名）が単位を修得している。令和 4 年度に科目を設置してから 3 年目であるが、累積で 1～3 年次学生の約 45%（前年度：1、2 年次学生の約 40%）がプログラムを修了しており順調に進捗している。

2. 学修成果・学生アンケートを通じた学生の理解度・後輩等他の学生への推奨度【A】

授業評価アンケートの結果、約 82%（前年度 83%）の学生が「深く理解できた」と回答しており、昨年度同様十分な評価を得ていることを確認した。また、「全く知らない AI について、わかりやすく勉強することができた」、「今まで苦手分野としてできるだけ避けてきた科目だったが、とてもわかりやすい授業のため、苦手だからと逃げずに、日常生活で関わるところから学んでいきたいと思えた」、「日常生活における活用例を示しながら授業を行っていてわかりやすかった」との自由記述もあり、学生の満足度が高かったことを確認した。

3. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況【A】

総合科目Ⅰは複数クラス開講されており、いずれか 1 クラスのみ履修可能となっているが、a～d の 4 クラスから a～c の 3 クラスの開講に変更したことで、履修者の増加につながった。更なるプログラムの履修率向上のため、引き続き「総合科目Ⅰc（ビジネスにおける AI データ利活用）のカリキュラム」上の位置付け等について検討を続ける。

4. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価※評価対象外

1年次での履修を推奨するプログラムであり、科目設置3年目であることから、今年度は、調査を実施していない。

5. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見【A】

大手コンサル企業からのクロスアポイントメント教員が担当する科目であり、産業界からの視点により開発・改善等が行われている。また、授業は、オンデマンドで時間割を指定しない形式により実施されており、授業評価アンケートでも約93%（前年度：90%）の学生が適切な形式であったとの回答をしている。

6. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること【A】

クロスアポイントメント教員がビジネスの現場で感じる課題を用いるなど、実践的な内容になっており、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を強く意識していることを確認した。

7. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること【A】

時間割の制約のないオンデマンドでの授業実施形態をとりながら、定期的に小テストやアンケートを実施するなど、学生の理解度を把握しながら進められている。長期間、繰り返し視聴することが可能なオンデマンド教材により、学生にとって難しいテーマであっても、十分理解できるように配慮されている。